

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 最優秀賞

「弟のまほう」

相模原市立淵野辺学校

六年

上間

花奏

うえま

かな

私の弟、そうちゃんは八歳です。でも、そうちゃんは一歳の世界で生活しています。そうちゃんはダウン症です。そうちゃんはいつもニコニコです。そうちゃんの笑った顔にはまほうがかかっています。どんなまほうかというのと、そうちゃんが笑うと周りの人がみんな笑顔になる、というまほうです。そうちゃんは今日もニコニコです。そんなそうちゃんは私の大切な家族です。

でも世の中では、そうちゃんのような大切な家族がきずつけられたり、命をうばわれたりしてしまうようなひどい事件が起きてしまうことがあります。そんな事件の話を知ると私はとても悲しい気持ちになります。

どうして障害のある人がひどい目にあわされなければならないのでしょうか。障害があっても一人の人間なのに。大切な家族なのに。

でも、私の友達は、みんなそうちゃんのことを大好きです。会うと毎回だっこしてくれます。そうちゃんも楽しそうに笑っています。また、そうちゃんが保育園に通っていた時は、そうちゃんの周りにはいつもお友達がたくさん集まっていました。私は、そうちゃんが小さい頃からたくさんの人に知ってもらえるチャンスがあったから、たくさんの人に愛されているのだと思います。そうちゃんのような障害をもった子供が、生活の中に当たり前にいる世の中になれば、ひどい事件は起こらなくなると思います。

ダウン症は、そうちゃんの生まれもった個性です。そんな個性をもった人達を私は応えんしていきたいです。私はしよう来そうちゃんのような個性をもった人達を幸せにする仕事につきたいと考えています。そうちゃんはこれからたくさんの人を笑顔にしていくと思います。私は、そんなそうちゃんが大好きです。